

## 平成24年度第3四半期報告の概況について

三井生命保険株式会社（代表取締役社長 山本 幸央）の平成24年度第3四半期報告の概況につきまして、以下のとおりお知らせいたします。なお、数値の詳細は、本日付ニュースリリース「平成24年度第3四半期報告」をご覧くださいませよう、お願い申し上げます。

### 【契約の状況（個人保険および個人年金保険）】

- ◇ 新契約年換算保険料は、個人保険、個人年金保険のいずれも前年同期を上回った結果、前年同期比4.2%増の222億円となりました。
- ◇ 解約・失効年換算保険料は、前年同期比15.4%減の169億円、解約・失効率は、前年同期から0.48ポイント改善の3.38%となり、引き続き改善しております。
- ◇ 保有契約年換算保険料は、解約・失効・満期等の減少が新契約を上回っており、前年度末比1.5%減の5,275億円となりましたが、減少のペースは着実に改善しております。

### 【損益の状況】

- ◇ 保険料等収入は、個人保険および団体年金保険の保有契約減少により、前年同期比4.0%減の4,187億円となりました。
- ◇ 基礎利益は、金融環境の改善に伴い変額年金保険等の最低保証に係る保険収支が改善したことにより、前年同期から203億円増の215億円となりました（最低保証に係る要因を除外した基礎利益は、同22億円減の179億円）。また、有価証券評価損を179億円計上した影響から、経常利益は前年同期から123億円減の84億円、四半期純利益は51億円となりました。

### 【その他主要指標の状況】

- ◇ 有価証券含み損益は、前年度末から224億円増の1,599億円となりました。
- ◇ ソルベンシー・マージン比率は、資産運用リスクが減少したこと等により、前年度末から39.1ポイント増加して525.8%となりました。また、実質純資産額は、有価証券全体の含み益が増加したことにより、前年度末から252億円増の5,000億円となりました。

## 1. 契約の状況〔個人保険＋個人年金保険〕

(単位:億円、%)

区分	平成23年度 第3四半期累計期間	平成24年度 第3四半期累計期間	前年同期比 増減率
新契約年換算保険料	213	222	+ 4.2

(単位:億円、%)

区分	平成23年度 第3四半期累計期間	平成24年度 第3四半期累計期間	前年同期比 増減率
解約・失効年換算保険料	200	169	▲ 15.4
解約・失効率〔年換算保険料ベース〕	3.86	3.38	0.48ポイント改善

(単位:億円、%)

区分	平成23年度末	平成24年度 第3四半期会計期間末	前年度末比 増減率
保有契約年換算保険料	5,357	5,275	▲ 1.5

- (注) 1. 年換算保険料とは、1回あたりの保険料について保険料の支払方法に応じた係数を乗じ、1年あたりの保険料に換算した金額です(一時払契約等は、保険料を保険期間で除した金額)。  
2. 新契約には、転換による純増加を含んでいます。  
3. 解約・失効の数値は、失効後復活契約を失効と相殺せずに算出しています。

## 2. 損益の状況

(単位:億円、%)

区分	平成23年度 第3四半期累計期間	平成24年度 第3四半期累計期間	前年同期比 増減率
基礎収益	6,353	6,089	▲ 4.2
うち保険料等収入	4,359	4,187	▲ 4.0
基礎費用	6,341	5,873	▲ 7.4
基礎利益①	11	215	+ 1,744.8
逆ざや額	▲ 450	▲ 453	+ 0.7
危険差益	458	691	+ 50.8
うち最低保証に係る要因(注)②	▲ 190	36	—
費差損益	3	▲ 22	—
キャピタル損益	200	▲ 96	—
うち有価証券評価損	45	179	+ 292.3
臨時損益	▲ 4	▲ 34	+ 759.8
経常利益	208	84	▲ 59.5
特別利益	4	35	+ 689.7
特別損失	15	4	▲ 71.5
契約者配当準備金繰入額	112	107	▲ 5.1
四半期純利益	12	51	+ 321.0

基礎利益(最低保証に係る要因を除く) ①-②	201	179	▲ 11.3
---------------------------	-----	-----	--------

- (注) 「最低保証に係る要因」は、変額年金保険等における次の金額の合計額です。  
・最低保証に係る一般勘定の責任準備金の繰入・戻入額  
(平成23年度第3四半期: ▲ 218億円、平成24年度第3四半期: 8億円)  
最低保証に係る一般勘定の責任準備金とは、変額年金保険等の最低保証リスクに備えて積み立てている準備金です。  
最低保証に係る一般勘定の責任準備金を繰り入れた場合は基礎利益を減少させる要因に、また、最低保証に係る一般勘定の責任準備金を戻し入れた場合は基礎利益を増加させる要因になります。  
・最低保証に係る保険料収入から、年金開始等の際に最低保証のためにん補した額を控除した額  
(平成23年度第3四半期: 28億円、平成24年度第3四半期: 27億円)

## 3. その他主要指標の状況

(単位:億円、%)

区分	平成23年度末	平成24年度 第3四半期会計期間末	前年度末比 増減額
有価証券の含み損益(一般勘定)	1,374	1,599	+ 224
ソルベンシー・マージン比率	486.7	525.8	+ 39.1ポイント
実質純資産額	4,747	5,000	+ 252
総資産	71,681	71,340	▲ 340

以上